

# オホーツクの風

発行所

北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会  
事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16

Tel 0157-61-0684

平成27年10月31日(土) 日赤医学会総会・臨時増刊(0015号)

## パネル展とドリンクサービスでおもてなし

### 第51回 日本赤十字社医学会総会

ポスター会場  
休憩コーナー・ドリンクコーナーをサポート



平成27年10月15・16日、17日00名を上回る日本赤十字社の病院・医療関係者が北見に集い、第51回日本赤十字社医学会総会を開催しました。

北見市立体育センターはポスター会場となり、アリーナでポスター発表が行われ、隣の銃剣道場の特別展示・ドリンクコーナー・休憩コーナーを当会が支援し

ました。ポスター会場は3分野の貼り付けブースが5ヶ所あり、全体に設置され、1分野に6つの発表資料を貼り付け、1テーマ3分の持ち時間で、座長が司会進行を担当、時計係が時間管理をして行われる。2日間で、49分野、280テーマの体験・研究発表が行われました。特別展示は会の歴史を展示することになり。会の機関紙「オホーツクの風」創刊号から最新号をA2のスケレンボードに貼り付けた、15枚のパネルを作製。更に病院や会のイベントの写真を60cm×高さ50cmの台紙にA3ノビにプリントした写真を貼り付けた、12枚を併せて展示します。展示品の作製に2ヶ月ほど掛かり、ようやく、10月14日午後、会場に持ち



ポスター会場出入り口とシャトルバスの乗降ステーション

込み、壁面ボードに会員の手で取り付けました。同時に(株)光洋さんの職員とメーカーの皆さんでドリンクコーナー設置も併行して行われ。コーヒーマシンの設置や電源の取り込みなどが行われました。休憩コーナーのテーブルやイスの配置、テーブルクロス

掛けなども会員の手で行いました。午後5時にはすべての準備が整い、明日のオープンを迎えるばかりです。10月15日、午前8時にはパネル貼りの皆さんが休憩コーナーに集まり、賑わいました。ドリンクサービスやパネル展を見た方からの質問への対応、配布用を作成した「オホーツクの風」日赤医学会総会特集0015号」と街マッパの手渡などで、ホスピタリティ豊かなおもてなしが出来たと思います。



国内外救援・救護ボードに資料の貼り付け

# オホーツクブルーと稔りの大地の間 素敵な出会い

全国から北見入りした日本赤十字社の皆さんに会員がそれぞれのパフォーマンスでおもてなし。そこに面白いのドラマがありました。

**名古屋第二赤十字病院  
・高山赤十字病院**

名古屋第二赤十字病院・院長先生がいろいろお尋ねになり、大変、好意的に話を聞いて下さった。

パネル展の会場で北見赤十字病院の女性スタッフの方が声をかけて下さり、「副院長のお話を聞いて(谷川が話したことが)大変良い



ものであったみたいだ」とのこと、その好意的なご様子に感じ入りました。

いつかお話しが出来れば、と。頂いた名刺をひもとくと高山赤十字病院の副院長先生と解りました。「支援する会」

をつくるきっかけになったこと、いくつかの活動について話したのだと思えました。

嬉しい出会いであった。超多忙であったはずの吉田院長が「支援する会」の「パネル展」に足を運んで下さった。

北見の歴史に素晴らしい一里塚を築いて下さった吉田院長の英断に拍手を送りたいと思う。

そして、参加させて頂き下さったことに感謝なのである。一日半の中で3回

転じたパネル展は、部外者の目にも豪華絢爛な医療技術と知の世界だった。凄い。研鑽の成果を受け止められる患者でありたいと思う。

代表・谷川勝男

**足利赤十字病院  
日赤長崎原爆病院**

パネルは出入り口から順に張ってある。チラッと目をやる方、順序良く見て下さる方、途中気になった写真などから見始める方、目もくれない方さまざまなのです。

ドリンクコーナーの人の波は150人ほどいたり、20人程になったりを繰り返す。

「この会はどうな会ですか？」と声をかけて下さる方が何人かいました。「北見赤十字病院はこの

オホーツク地域で大切な病院なので、市民の自発的な応援です」と答える。足利赤十字病院の方にお会いし、来年は宇都宮で医学会総会が開催されることなど、谷川代表とお聞きした。翌日、足利赤十字病院の3人の女性が見えられ、熱心にわたしたちの活動を聞いて下さり、嬉しい出会いになりました。



同乗の女性2人は

15日の予定を終らせて駐車場に行くのと、私の車に20cmほどの間隔で車がピタッと止まっていた。

長崎原爆病院の方

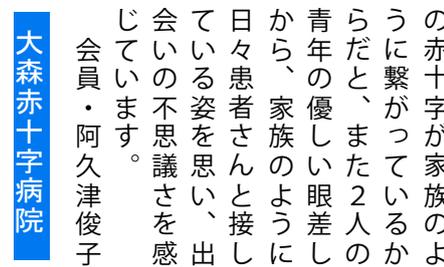
で、まるで旧知のように、親戚の者のように話弾んだ。発表も部外者と知りつつ、聞かせていただけ、もっと多くの方に聞かせたい、こ

「日本赤十字社医学会総会」出席者のネームがありました。16日ポスター会場に入ると、展示を終えた昨日の2人、私達3人と共に、ドリンクコーナーでお礼を言って歓談しました。

心でできるのは、全国の赤十字が家族のように繋がっているからだと、また2人の青年の優しい眼差しから、家族のように日々患者さんと接している姿を思い、出

会いがけなく日本赤十字社の行事に係

害時などで素早く対応



大森赤十字病院

10月14日(水)

オホーツクビアファ

クトリーにて「意見交換会(本社役員・実行委員など)」。我が会も出席した。

私は隣の方と名刺交換をし、新しい出会いがうまれた。東京都大田区の大森赤十字病院、検査課長職務代理の方と係長である。ビールの美味しさや、北見の今朝の寒さなどなど大いに意見交換することが出来た。また、「日赤支援する会」で、何ですか?私にはビールの力を借り、身振り手振りです説明し、楽しいひとときが流れ北国の夜は過ぎていった。

10月15日(木)北見市立体育館。支援する会もパネルと写真を展示した。またドリンクサービスも担当した。私の友人三人も応援してく

れた。そこへ、昨夜

の大森赤十字病院の

二人が来て「これから発表がありますから聞いて下さい」と私に声をかけてコーヒーを啜っていた。「災害医療Ⅱ」、「当院と大森各医師会等合同災害救護訓練」緊急医療救護所(座長・北見赤十字病院、医療情報係長)であった。

私は以前特別老人ホームの施設長をしていた頃のことを思い出す。やはり地域住民の方々と避難訓練を年に一回は実行していた。地域のかたがたの協力がなくてはならない。

発表が終了し座長より「質問ありませんか」という問いに對して、私は思わず「ハイ」と手を上げてしまった。「地域住民の方との訓練は、前もって打ち合わせをしたのですか」「そうですね。町内会の方々と打ち合わせをしましたよ」と。

訓練とはいえ、綿



密な話し合いと確認が大切であることを実感した。災害にあっても慌てないように、日ごろから訓練し準備しておくことの大切さを痛切に感じた。

会員・荒田悠 おもてなしは 明日への一歩

この度の医学会総会に、全国各地より大勢の医療関係者が参加され、当支援会の協賛パネル展にも足を運んでいただきました。その多くの皆様が立ち寄って下さった休憩コーナーで、私もスタッフ一同心からの歓迎の意を込

めて、湯茶のおもてなしをさせて頂きました。

まず、訪れる皆さんから最初に質問を受けたのが「支援の会」ってなんですか。「どんな人たち」の集まりですか。「病院のOB」の方々のすか。「病院の仕事」を手伝っているのですかなどでした。その様な会話の傍ら、ドリンクコーナーへご案内し、飲み物を召し上がって頂き、15・6の両日に亘りお越しいただいた方も数多く、何人もの方々から、「北見の水はおいしいですね」「こんな美味しいコーヒーは余り飲んだことがない」と何度もお替わりなさるなど、その一言に胸が熱くなるのを覚えました。

そのドリンクコーナーを設定、サービスのご指導をいただいた(株)光洋アメニティ施設総括責任者様、カフェ店長様、

今後益々、北見赤十字病院がこのオホーツク圏において、最先端の医療技術の為に充実、発展していただけることを願います。

支援の会の一員として、これからも様々な分野で学び、そして今日を一歩に、支え合いの絆をより一層強め、活動を続けてまいりたいと、思いを新たにしました次第です。

会員・阿部孝子

地域医療が身近に

先日開催された日赤医学会総会において、私は当会の会員としてドリンク休憩に來られる皆様のお出迎えのお手伝いをさせて頂いていただきました。

参加証に記された施設名を拜見すると、全国各地で活躍されている様々な職種の方々とお会いすることができ、とても光栄に思いました。



た。

訪れたかたお一人一人に機関紙を手渡し、「日赤を応援している市民の会です」とお声かけをされると、私たちが日赤関係者ではなく一般市民と知って驚かれる方が多くいらっしゃいました。このような形でボランティア活動をやるケースはほとんど例がないとのこと、私たちがのように日赤病院の発展を願って応援する市民の存在を知ってもらえる、とても良い機会になったのではないのでしょうか。

医療というものは、医師や看護職だけでなく、医師や看護職ではない方も、今日その健康を守るという意味でも、連携が整った地域医療はなくてはならないものだと思います。

今後市民の立場で、地域医療についての知識と理解を深め、自分にもできる活動をしていきたいと思っています。

会員・森實結佳



# シャトルバスが各会場を循環運行して

## 大きなつのコンベンションホールに

医学会総会は北見市内の4施設、13会場で開催。

①北見市民会館は

メイン会場で、ロビーには総合受付ブース・ドリンクコーナー・企業展示ブースが所狭しと設置され、大ホールでは開会式、特別講演「知床・オホーツクの自然を守る」過去・現在・未来」などの講演が行われ、

また小ホールでは「集え研修医！研修医症例検討会 Doctor Cross in オホーツク」が開催され、北見赤十字病院の研修医「フオークダンス」も参加しました。

②北見芸術文化ホールは「地域連携・医療ネットワーク」

や看護部門の講演会が、また中ホールでは「消化器診療の最前線」など医師を対

象にした講演、そして「看護、地域連携・僻地医療」などの発表がありました。



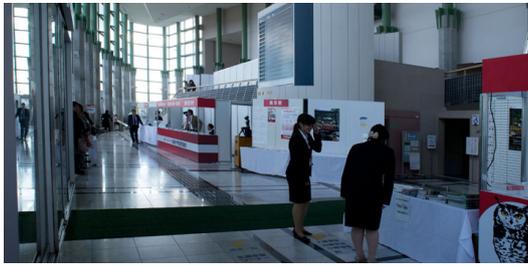
③市立体育センターは本紙第1面の既報通りです。

④ホテル黒部は診療支援の取り組み、管理部門、臨床工学科門、放射線技術部門、検査部門などの発表がありました。市内に分散した4つの会場間をシャトルバスが循環運行して各会場の連携を図りました。

シャトルバスは開催期間中、10分から20分間隔で循環運行しました。これで、各会場の移動はスムーズになり、会場が離れているという感じは少なく、まるで、大きなコンベンションホール(大規模な会議場・展示場)で開催したような感覚です。北見のような地方



都市の限られた会場環境でもこのような大規模な催し物が出るのが判り、北見市民として、今後のコンベンションや観光の可能性を見いだした思いです。本医学会総会を開催した北見赤十字病院の企画力、組織だった運営力は素晴らしい感動しました。15日夜、歓迎夕食会「医療人の集い」がホテル黒部の宴会場、同ホテル駐車場にテントを張った特設会場、ホテルベルクラシック北見の宴会場の3会場で開催された。



3つの会場はテレビ放映のネットワークで結ばれ一つの大きな宴会場のような臨場感で懇親を深めました。

メニューはオホーツクの山や海の幸で構成され、特設会場では焼き肉や帆立などの炉端焼きを味わいました。後日、このように食べ物がおいしい総会は北見が初めてだとの声が聞こえてきました。総会は盛大で成功裡に幕を閉じたものと確信しています。

### 編集後記

昨年の熊本開催で、第51回日本赤十字社医学会総会は北見で開催が決定しました。

北見で経験したことのない壮大なプロジェクトが動き出した。総会参加者(当時は2000人を想定)の宿泊の確保など気の遠くなる多くの課題を1年掛かりで一つ一つ解決を積み重ねて、先日開催を迎えました。

総会開催時は突然の不都合への対応、クレーム処理と大変な裏方の任に当たった病院の総務課長はじめ、役員の方々の皆様のご苦労は大変なもの、慰労の気持ちでいっぱいです。当会の特別展示とドリンクコーナーのお手伝いを通じて日本赤十字社医学会の皆さんとの嬉しい出会いを作ることが出来、有り難く思っています。(逢坂)